

伊蘇物語

牧羊譯

其十五 蝙取り

一人の子供が蝙取りに出かけた。大分數多く取つてから、一匹のサソリを見つけて、夫を蝙と間違へて取らうとして、ひょいと手をさし出すと、其のサソリめが、刺をとがらかしていふには『オイ君、僕の身體に指一本でも觸るなら觸つて見よ、僕をつかまへることが出来ぬばかりか、ふまけに折角捕つた虫まで失くして仕舞ふよ』

其十六 犬と影

一匹の犬が口に一片の肉を喰へて、水の上の橋を渡りかゝつて、自分の影が水に映つたのを見て、夫を、他の犬が、自分の肉の二倍もある肉を喰へて居るのだと思つた。そこで、其大きな肉を奪は

うと思つたので、自分の口に喰へた肉は捨て、仕舞つて、恐ろしく影を目がけて食つてかゝつた。其爲に此犬は兩とも失つた、即取らうとした水の中の肉と、夫は勿論自分の影だつたからして、夫から、自分の持つて居たのと、夫はすぐと水に流れされ仕舞つたからして。

其十七 仁王と牛追

一人の牛追ひが、牛に車を牽かせて田舎路をやつて行つた處が、忽ち泥濘の中へ、深く車輪を沈めて仕舞つた、處が、此百姓は、たゞ吃驚するやら、周章るやらで、其車を見つめて立つて居る許り、何もないで、たゞ大聲をあげて、仁王様に出て来て助けてくれる様にと叫んだ。するとそこへ、例の仁王様が出て來ていふには『オイ／＼其車の輪の中へお前の肩を入れるのだ、夫から牛を追つて

見よ、夫からして以後は、自分の力で厭くまで骨を折つてからでなくては、此方に助を求めては相成らんぞ、夫でなくつて、只管助を求めることがあり考へたつてとても、駄目だと心得よ』
『自分を助くるは最良の助なり

其十八　むぐらの母子

一體むぐらもちといふ獸は產れ附きから盲目なんですが、或時のこと御母さんに向つて『お母さん、妾乞度見えるのよ』と申しますから、お母さんは其心得違の證據を示してやらうと思って、其前へ胡桃の實を五つ六つ並べて聞きました『そんならお前、之は何ですか』すると子は、夫は石塊です』と答へた。そこでお母さんが歎いて申しますには『オや、マー、お前は、盲目であるばかりか、物を喰ぐ力もなくなつて仕舞つたらしい

見よ、夫からして以後は、自分の力で厭くまで骨

其十九 牧畜者と仔牛

一人の牧畜者が、森で澤山仔子を飼つて居たが、或時一匹の仔牛が見になくなつた。だん／＼と探し見たが、一向探し當らないので、とう／＼神様に誓を立てた、其誓といふのは若し仔羊を盗んだ賊だけでも見附けたもんなら、森の神々へ一匹の仔羊を殺して供へようといふのです。夫から間もなく、小山の方へ上つて行つた所が、丁度自分 のすぐ足下に、一匹の獅子が彼の仔牛を捕へて嘴をしゃ／＼食つて居る。之を見て牧畜者は忽ち懼へ出して不意に天に向つていた『賊を見付けたら、森の神様へ仔羊を殺して供へますと、たゞ今私は誓ひました、併し丁度今私は其賊を見附ましたが、若し此賊から私の命さへ助かることなら失

た仔牛は愚か、大きな親牛までも附け加へて進上致しましよう。

慈善の麵包

北斗女子譯

簡易英語

I go to School

私は學校に行きませう。

Don't you go with me?

あなた一所に行きませんか

Look there, how many boys here are coming!

わそこを御覧、まー大勢の子供等がコチツへ来ますこと、

Let us go with them.

わたくしのあの人と一所に行きませう。

饑饉の時に近郷の或慈善家が市中の貧乏なる二十名の小供を呼び此籠の内に汝等の爲に二十個の麵包がある、各々一個宛を取り、善き時となる迄、日々同じ時間に汝等来るべしと籠を出せしに、小供等は我れ勝に其籠に飛び行き、可及的大なる麵包を取らんと争ひ或は喧嘩し挨拶もせず、後をも見ず、皆々駆去りしに、貧乏なれども清き衣服を着たる「フランチシカ」と云ふ少女一人は遙か向に謙遜して立ち居たり、彼の小供等が去りし後やがて静かに進み出で籠に残りし小き麵包を取り丁寧に挨拶して去り、翌日小供等來り前日の通り互に喧嘩し去りしに「フランチシカ」ばかりは此慈善家に丁寧に黙禮して進み籠に残りし殆んど半分